

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム みどりの里 西ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホーム みどりの里 西ユニット		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市第40地割22番地2		
自己評価作成日	令和5年6月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年8月に「夕涼み会」を開催し利用者様、ご家族、職員との交流の場になっていましたが、コロナ禍で3年間開催を見合わせ、面会はパーテーション越しでお願いしていた。感染状況が落ち着いてきたため、今年7月に「みどりカフェタイム」を開催し、ご家族様を施設内にお招きして、利用者様と同じテーブルでお茶やおやつを楽しみ直接触れ合える時間を設けた。手を取り合い喜びに涙する姿を拝見し、定期的な開催にするように検討している。
職員全員が、考える力、発信する力を持つように、カンファレンス資料の作成、勉強会のテーマにそった資料作りを当番制にしている。資料作りで悩んだ際には、同僚、介護リーダー、管理者に相談しすすめている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、青森県境にほど近い角の浜地区にあって、デイサービスセンタ、認知症対応型通所介護施設が併設された2ユニットのグループホームである。施設長の下で、両ユニットの管理者とそれぞれの介護リーダーを中心に運営され、理念の「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」を玄関、事務室、休憩室等に掲示し、常に目に触れるようにしながら、その実践に努めている。日々の生活の中で利用者一人一人の心情を大切に、体調や食事、入浴、思いなどを聴き取り、随時ミーティングノートに記録、共有し、利用者の思いに寄り添い、細やかなケアに努めている。また、通院介助時に職員が持参する、排泄や服薬などの介助の状況やADL等の推移を一覧にした「通院申し送り表」は、事業所と医師との大切なパイプ役を担っている。家族等との面会は、玄関でパーテーション越しとしているが、今年度初めて「みどりカフェタイム」を2日間にわたって開催し、多数のご家族が来所されパーテーションを外して、久しぶりに利用者ご家族との懇談の時間を持つことが出来るようになった。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関、職員休憩室に理念を掲示し、職員が常に確認・意識出来るようにしている。利用者のケアに迷った時は、理念に立ち返り問題解決につなげている。	「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」を提供するとした理念は、開設時、現在の東棟の管理者が中心になって作成した。事業所が利用者にとって、いつまでもここで生活できる心地よい場所であり続けることを目標としている。日々のケアに迷ったときなど、職員が各自ミーティングノートにその都度記入し、管理者等のアドバイスを受けながら共有し、入居者一人ひとりの最善のケアを追求している。	理念は、職員が一堂に会した場所で行われる日々の介護の振返りを通じて、職員間で共有されることが望ましいことから、ミーティングノートを活用しながら、定期的にそのための機会を設けることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、募金活動に協力している。感染症対策のため、近隣の小学校、中学校との交流は控えている。毎月届く広報誌の中に懐かしい名前を見つけたり自分が生活していた地区の記事をみて懐かしんでいる。	コロナ禍の位置づけが変わったとはいえ、事業所にとってひとときも油断できない状態が続いている。そのため、近傍の角の浜小学校との交流は中断したままである。管理者は、対面での運営推進会議の開催から少しずつ門戸を開いていきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の社会科見学、中学生の職業体験を受け入れ、認知症への理解を深めてもらう場としていた。感染症対策で、現在は受け入れを行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定期開催し、施設状況の報告や意見交換、町内の他の施設での動向などの情報交換、アドバイスを受ける機会となっている。	7月の運営推進会議は対面で開催できた。開所以来の元入居者のご家族、福祉関係者、消防OB、民生委員、地域包括を兼ねる役場職員と、多彩なメンバーで構成されている。久しぶりの対面開催ということもあって、7月の会議では、家族との交流の場として企画した「カフェタイム」について前向きな意見をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席して頂き、情報やアドバイスを頂いている。	介護保険の全般は広域連合が所掌し、要介護認定申請時や制度改正の際には、様々な助言を得ている。待機状況の情報提供など、連絡を取り合ったりしている。町主催の地域ケア会議は、今年度招集はない。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が主体となって身体拘束廃止のマニュアルを整備し、全職員に配布している。委員会の勉強会や定例会議で個々のケアが身体拘束に抵触していないかどうかを検証している。門、玄関の施錠は19時に行い、翌朝5時に解錠している。防犯上の理由から施錠している。	身体拘束は勿論ないが、家族の同意書の様式は備えている。身体拘束に係る研修は、身体拘束防止・事故対策委員会の担当者が、資料を作成・回覧している。スピーチロックは、なれ合いの状況が続いたときなど、介護リーダーや管理者が注意、牽制、意識を再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のため、施設内での勉強会を定期的に行い「権利擁護・虐待」について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業1名利用、成年後見制度1名利用中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて説明を行い、専門用語を使わずに分かりやすい言葉で丁寧な説明を心掛けている。改定などの際は文章で連絡し、更に電話で不明な点・疑問点がないかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は、会計で来所された時や病院受診時に伺うことが多い。ケアプランの更新時にご家族と面談の時間を設けてご意見や希望を伺っている。	家族との面談の機会を確保できるよう、毎月の利用料の持参を勧めている。介護度の高い利用者が多く、家族が話すのはまず感謝の言葉であり、7月に開催した「みどりのカフェ」でも、入院中の状態から想像できない程回復された入居者のご家族から感謝されている。このカフェタイムは、久しぶりに長時間利用者と触れ合える機会とすることが出来たこともあり、入居者・家族のためにも、継続実施を検討したいとしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議やカンファレンス、ミーティングノート等で意見・提案を出しやすい機会を設けている。各ユニットに、介護リーダー、副リーダーを配置し、職員が話やすい環境を整えている。	定例会議を開催することが困難な場合が多く、職員が自由に記載できるミーティングノートが情報共有ばかりではなく、意見提案のツールにもなっている。施設長との面談に代わり、処遇改善の提案や様々な申し出は、紙で提出している。毎年行っている働き方アンケートは、職員がそれぞれの働き方を振り返る機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、働き方アンケートを実施し、職員が個々にスキルアップの為にしていることや、業務上で力を入れていることなどの把握に努めている。資格手当・夜勤手当・休日出勤手当・昇給・賞与の支給に努め、介護職員処遇改善加算、特定処遇改善加算を特別手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修への参加や、法人内研修の開催で外部からの講師を招き学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に加入し、外部研修や地域会議で同業者との交流がある。現場での困難な事例についても参考意見をもらう等、サービスの向上に取り組んでいる。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者がご本人、ご家族から心配事、要望などを話やすい雰囲気作りを心掛けている。面談や対話を積み重ねながら信頼関係の構築に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、不安な事や困っていることなどを伺っている。ご家族が望まれるご本人の生活歴を詳しく伺うようにしている。入居後は出来るだけ多くの機会に利用者の生活状況を伝え、何かあればその都度電話にて相談している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がアセスメントを実施し、ご本人が出来る事、出来なくなり困っている事を見極め、ご本人に必要と思われる支援を居宅支援事業所、地域包括支援センターの担当者とも連携しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、地域の行事、伝統料理、生活の知恵などを教えて頂くことも多い。現在出来ていることを継続出来るように、利用者の能力に応じた手伝いや役割を担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時には電話で相談したり、会計で来所された際に、ご自宅で生活していた時の様子を教えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策のため、馴染みの店や床屋に通うことは難しくなっている。町内の老人会主催の演芸会や地域のお祭りのDVDを鑑賞し、参加者の中に知人を見つけたり馴染みの場所の映像を見て話が弾んでいる。	知人から手紙をいただく方や隣接のデイサービスに通う利用者が、顔を見に立ち寄ることもある。多くのご家族は、毎月の利用料の支払いや通院時に面会されている。コロナ禍で祭り見物に出かけられない中で、身体で覚えている流し踊り「なやどら」をDVDで鑑賞することを楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を性格や相性で調整したり、孤立しがちな利用者には職員が間に入り、他の利用者に関りが持てるようにお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったり入院などで退所した時には、担当のケアマネージャーや医療関係者にホームでの生活状況や介護情報を提供している。またご家族やご本人からの相談は随時受け対応している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から伺ったり、それが困難な方には生活の状況を観察し情報を職員全員で共有し、提供したサービスを定期的に検証している。日々の生活の中で職員と一対一で向き合える時間を設け、ご本人の思いをくみ取れる様に心掛けている。	職員は日々の介護の合間を見て、おやつや茶の時間帯に利用者の嗜好や意向の把握に努め、介護の状態とともに記録に残し、職員間で共有している。ケアプランの更新がないと思われる場合でも、本人の意向を確認しながら進めている。	
----	-----	--	---	--	--

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階でご本人・ご家族からお話を伺ったり、担当ケアマネジャーから情報提供してもらっている。入居後は、コミュニケーションの中でご本人の言葉、仕草、表情から推測しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで、利用者の体調面、食事量、排便の有無などを確認し、職員と過ごす中で個々の有する力の把握に努めている。計算問題を解くことが得意な方、達筆な方、洗濯物を丁寧にたたむ事が出来るなど、個々の利用者の得意とすることを職員が把握し日中の活動に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族に意向を確認し、計画作成担当者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。毎月のカンファレンスで必要に応じてモニタリングを行いプランの見直しを行っている。	入居者全員を対象に毎月カンファレンスを行い、計画見直しに必要なモニタリングは、管理者、計画作成担当者と居室担当者が行なっている。変更計画の案は計画作成担当者が居室担当者の意見を得ながら作成している。カンファレンスでの職員意見は、ミーティングノートで集約される場合が多い。ご家族には、利用料支払い時や遠方のご家族には郵送、メール等で説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子は個別に記録されている。日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へと情報は共有され、気づきや変化についても記録を残している。問題が生じたときに記録を遡り解決の一口になる事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の利用者の通院の際に、ご家族の車では対応が難しい為、病院までの送迎を施設で行いご家族と待ち合わせするなど行っている。会話が難しい利用者の様子をテレビ電話を使ってお伝えするなど、利用者のご家族が必要としていることに、出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域ケア会議で情報を頂き、地域のイベントや小学校の行事に参加していたが、感染症対策の為、参加は見送っている。町の発行する広報誌を定期で届けてもらっており、毎月の楽しみの一つになっている。字を読むことが難しい利用者も写真を見て楽しんでいる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院へ通院している。多くの利用者は、地元の国保種市病院をかかりつけとしている。職員が受診に立ち合い、受診結果をファイルに記入し職員全員で健康面の情報を共有している。歯科往診も随時依頼し、義歯の不具合やかみ合わせの調整等を診て頂いている。	多くの利用者が国保種市病院をかかりつけ医としている。また皮膚科、眼科、耳鼻科等は、八戸市内の医療機関に随時通院し、歯科は希望日程を調整して往診していただいている。車椅子利用者が多いため、通院は職員1人が利用者1人に付き添っている。排泄や服薬などの介助の状況やADL等の推移を一覧にした「通院申し送り表」は、事業所と医師との信頼関係の醸成に寄与している。	「通院申し送り表」は、利用者の健康状態等を把握できる工された様式と言え、今後も必要に応じて加除しながら、事業所、医療機関にとって利用者の日常を振り返り、或は容易に把握できるものとしていかれることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内のデイサービスの看護職員に相談し、アドバイスを受けられる体制が整っている。緊急時には協力医療機関へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ渦以前は、入院時にはなるべく病院を訪ね、医師、看護師に治療状況を伺う等して情報収集を行っていた。現在は感染症対策の為、病院、家族とは電話での情報のやり取りになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看護師が配置されていない為、痰吸引などの医療行為は行えないことを丁寧に説明し了解をえている。重症化が見られた場合には、かかりつけ医や町内の他施設と相談し、より良い支援を検討するようにしている。	管理者は、地域の実情や家族の意向から、事業所自体が特養化しており、介護度3での特養入所申請は勧めしていない。食事摂取量が落ちてくる、痰が絡みやすくなる等の身体状況に変化が見られた際には、協力医療機関の医師に相談し、老健施設、特養等次の移行先の検討を提案され、見学や申し込みを促している。重度化が進行した場合には、かかりつけ医である種市病院の協力を得ている。事業所の体制等からも、現状を継続することが最適としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急時対応マニュアルがあり、緊急時にはマニュアルにそって対応する。施設にAEDを設置し緊急時に備えている。AEDの使い方についても定期的に確認している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり、職員は年2回(日中と夜間をを想定)の避難訓練を消防署の指導を頂き実施している。運営推進会議委員による避難者の見守り支援の協力も受けている。ハザードマップを活用し、避難経路、避難場所の確認もやっている。	ハザードマップでは災害対象となるエリアにはない。総合訓練、夜間想定訓練を年間2回実施している。二つのユニットが合築された平屋建てのため避難が比較的容易で、緊急時でも5、6人の職員が短時間で参集可能なことに加え、運営推進委員の協力を得ることができるなど、災害対応は比較的恵まれている。町の文化会館を避難場所とし、3日程度の食料を備蓄し自家発電機も備えている。	避難所としている町文化会館に避難するに当たり、必要とする用品等について、早急に確認されることが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話や申し送りの際には、利用者の耳に入らないように配慮している。入浴や排泄介助などの際には誇りや自尊心を損ねる事がない様に利用者の心に届くような言葉かけや対応を心がけている。	入居者を前に排泄に関連した話をはしないことや、朝、夕の申し送りの内容が、入居者の耳に入らないよう配慮している。裁縫や書、手打ちうどんなど一人一人の得意とすることや趣味で続けてきたことの把握に努め、生活の中での実践を支援している。毎年接遇に関する研修を実施し、個々の尊重とプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の気持ちを話やすい状況や場所などに配慮している。個々に向き合える時間を設け、毎日の生活で困っている事、やってみたい事などを伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間などの基本的な生活時間は概ね決まっているが、その時の利用者の体調やペースを大切にし、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服選びをお手伝いしたり、希望者には職員が散髪を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や調理を行うことは難しくなっているが、カウンターを挟んで台所とホールに分かれている為、調理の音や匂いで食事の時間が近づいていると感じることが出来る。「あずきぱっとう」や「豆しとぎ」などをおやつに取り入れ好評を頂いている。	食前には嚥下トレーニングを取入れている。ホールに台所があることで、自然に料理の匂いが漂う。調理は、東西のユニットが協力して行っている。栄養食事委員会の職員が1週間分の献立を立て必要な食材をその都度発注している。法人がスーパーを経営していた当時に比較して融通は効かなくなったとしている。おやつや手打ちうどんづくりに協力できる利用者もいるが、ほとんどが主食をお粥、副菜をミキサー食、刻み食で、約半数は食事介助が必要になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の行動表で食事量や水分量を把握している。咀嚼力、嚥下力、その日の健康状態に合わせた食事形態で提供している。食事が十分に摂れない方には補食等に対応している。水分を摂りたがらない利用者にはトロミ剤でスプーンで食べる状態にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを勧めている。一人では歯磨きが十分に行えていない利用者には、仕上げ磨きを行っている。必要に応じて歯科往診を依頼し、義歯の調整や修理を受け、口腔内環境を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンや回数を把握し、その方にあったタイミングで声掛けしトイレに案内している。利用者に合わせた介助や見守りを行っている。現在、布パンツ使用の方1名、リハビリパンツの方14名、オムツ使用の方3名となっている。	利用者に合わせた介助を第一に、利用者に合わせて行きたいときに行ける支援に努めている。着脱の介助と併せ、転倒防止の見守りが必要な利用者が多い。失敗したり誘導を拒む方には、複数の職員で対応し、頻繁に排泄を訴える方には、納得されるまで付添うようにしている。夜間トイレまでの移動に要する時間の関係上、4人の利用者がポータブルトイレを使用している。医療機関から退院すれば、オムツからリハビリパンツに改善するのが通例としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品、食物繊維の多い食品を取り入れた献立作りを心掛けている。毎日の軽体操や余暇時間で無理のない範囲で体を動かして頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、職員が声掛けや入浴介助を行っている。その日の体調や病院受診などに合わせた柔軟に対応している。「入浴」と聞くと「今日は入らなくていいわ」とお話される利用者には「体重測定があるので」と声掛けし、浴室にお連れしている。	午前中に両ユニットの職員2名で入浴介助に当たっている。入浴を拒む方は、声掛けを工夫して誘導に配慮している。一般浴槽使用は5人のみで、機械浴、シャワー浴利用が多くなっている。身体的にコンプレックスがある場合には、単独で入浴できるよう配慮し、また利用者間での相性を考慮して、入浴日、順番などを調整している。普段は入浴剤を使用し、季節に応じて菖蒲湯などで雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換やベッドメイキングで、気持ちよく休む事が出来る環境を整えている。夜間、寝付けない方には水分補給を勧めたり、ホールでお話を伺う等、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット別に服薬一覧表を作成し、内容を確認しながら準備している。配薬から服薬まで5段階の確認者があり、薬の目的、副作用、留意点などの医師・薬剤師からの情報をファイルにまとめ、職員全員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみや食器拭き、テーブル拭き等、それぞれが得意な事、出来ることを行って頂いている。縫物が得意な利用者には繕い物をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為、病院受診以外でのドライブなどは控えている。天気の良い日に園庭で外気浴を行う、畑の作物の成長を観察するなどし、施設内ばかりにこもらないよに工夫している。	車椅子利用の利用者が三分の二となり、一人での散歩は難しくなっている。複数での外出も難しい状況で、日中、外気浴や敷地内、菜園周りを職員の介助で散策することが多い。廊下の移動も散歩として活動している。通院の帰路に桜を見に寄り道ドライブの機会を設けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人で財布や現金を管理している利用者はいない。事務所で小遣いをお預かりし、希望の物や必要品をその都度購入できるようにし、お小遣いの利用明細書を毎月ご家族に送付している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話や手紙を書くことは難しくなっている。ご自宅に電話してほしいと希望がある場合には職員が電話をかけ取り次いでいる。ご家族から届いた絵葉書や写真入りのはがきを居室に飾りいつでも目にすることが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行き届いた清潔な空間を心掛けている。レクリエーション委員会が率先し、壁に季節を感じられる飾りつけを行っている。	事務室をはさんでそれぞれのユニットのホールから居住スペースへと繋がっている。ベッドのすれ違いが出来るくらいに廊下幅が確保され、天井も高く明り取り窓からの採光も取入れて明るい造りとなっている。壁面には、職員と入居者で作成した干支の貼り絵や季節に応じた装飾で雰囲気づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置の仕方、テレビを集中して見たい方、お話が好きな方同士、静かに過ごしたい方とそれぞれが快適に過ごす事が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのものやご家族の写真を持って来てもらうように声をかけている。各居室の担当職員が定期的に整理整頓を行い、清潔で居心地の良い空間を提供出来るように努めている。	夏季は、ホールのエアコンと廊下に設置の扇風機で空調が維持されている。テレビやタンス、ハンガーラックなどを持ち込まれている方もおり、希望に応じて椅子等の貸し出しもしている。整理、清掃が行き届いており、清潔で居心地の良い空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わないように、トイレや浴室などに大きな文字で案内板を掲示している。廊下から居室へは手すりが設置され安全に移動出来る環境を整えている。居室内のベッドやタンスの配置にも利用者個別の身体の状態や寝る姿勢を考慮している。		